

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K05706

研究課題名(和文) 消滅していく城下町の水路と池庭の名残りや記憶の残し方

研究課題名(英文) How to leave the remnants and memories of the disappearing waterways and pond gardens in the castle town

研究代表者

佐々木 邦博 (Sasaki, Kunihiro)

信州大学・学術研究院農学系・教授

研究者番号：10178642

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本の都市の起源が城下町であることが多い。生活に必要な水を得るために、水路が引かれ、さらに庭に池を造ってきた。その水路網と池のある庭園群が残る城下町は少なくなっている。現状の確認と現状の政策、そして名残や記憶の残し方を探ることが目的である。

長野市松代町、群馬県甘楽郡甘楽町小幡、福岡県朝倉市秋月、柳川市、長崎県雲仙市国見町神代を調査した。いずれも、水路網は維持されていることが多いが、池庭の減少は進んでいた。個人所有の池庭は宅地化されたり、荒廃している場合が多い。記憶を残す方法はガイダンス施設の建設や説明板の設置であるが、ほとんど整っていないことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都市の個性を担う古い庭園と水路が消滅していく動きの中で、具体的に、いったい何を残していくことができるのか、どのようにして残していくのか、という点を明確にしていく必要がある。さらに、残していくことができない場合、今後どのように痕跡や名残りを都市の中に残せるのか、あるいは記録を社会に対して残していくことが可能なのか、これらの点を明確にすることが重要な学術的問いかけであり、社会的な意義である。

研究成果の概要(英文)： Japanese cities often originate from castle towns. Waterways have been drawn and ponds have been built in the garden to obtain the water needed for daily life. The number of castle towns with a waterway network and gardens with ponds is decreasing. The purpose of this study is to confirm the current situation, the current policy, and how to leave remnants and memories.

I surveyed five cities: Matsushiromachi, Nagano City; Obata, Kanra District, Gunma Prefecture; Akizuki, Asakura City, Fukuoka Prefecture; Yanagawa City, Fukuoka Prefecture; Kojiro, Unzen City, Nagasaki Prefecture. In these cases, the waterway network is often maintained, but the pond garden is decreasing. Privately owned pond gardens are often converted into residential land or devastated. The methods to keep the memory are the construction of guidance facilities and the installation of explanation boards, but it become clear that they are hardly in place.

研究分野：造園学

キーワード：城下町 庭園群 水路網 説明板 長野市松代町 甘楽町小幡 朝倉市秋月 柳川市

研究題目 消滅していく城下町の水路と池庭の名残りや記憶の残し方

1. 研究開始当初の背景

人口が集積した城下町では、飲用水や生活用水を確保するために、井戸を掘り、あるいは川の上流から水を引いてきた。例えば、長野市松代町は真田藩の城下町であるが、町全体に複雑な水路網が形成され、現在でもその多くが残存している。さらに武家屋敷には水路から水を取り入れて池のある庭が造られ、池から池へと水が流れている。池のある庭は現在でも約90ヶ所が残り、松代町特有の景観を構成している。地域固有の景観が色濃く残されている。しかし、昔からの建物と庭園が残る広い屋敷地が再開発されるなど、しだいに消滅している。消滅の動きが、特に近年、激しくなっている。

学術的「問い」として、このように古くからある庭園と水路が消滅していく動きの中で、具体的に、いったい何を残していくことができるのか、どのようにして残していくのか、という点があげられ、明確にしていく必要がある。さらに、残していくことができない場合、今後どのように痕跡や名残りを都市の中に残せるのか、あるいは記録を社会に対して残していくことが可能なのか、これらの点が重要な「問い」かけであり、本研究の「問い」である。

2. 研究の目的

(1) 城下町の時代からの水路網と池庭の減少という課題に対応し、水路網と庭園群を都市の文化的な資産であると把握した上で、何を残していくことができるのか、どのようにしたら残していくことが可能なのか、これらの点を明らかにしていくことを研究の目的とする。

(2) さらに、残すことができない場合、名残りの残し方、記憶や記録を保存する可能性を明らかにすることも、本研究の目的とする。

3. 研究の方法

調査対象地を旧城下町の8ヶ所とした。

それぞれの町で水路網と庭園群の実態調査をし、また市役所の文化財課で聞き取り調査を行ない、資料を頂いた。また、図書館で資料調査を行った。その結果、水路と池庭の残り具合により、5ヶ所に絞った。長野県長野市松代町、群馬県甘楽郡甘楽町小幡、福岡県朝倉市秋月、福岡県柳川市、長崎県雲仙市国見町神代の5ヶ所である。

その後、それぞれの町で、案内のための施設や説明板の調査を行った。

4. 研究の成果

(1) 5ヶ所の調査地に共通している点だが、水路網はほぼ残されていた。庭園群だが、数が減少している。歯止めがきかない。小幡を除いて、池のある庭園の維持管理が不十分で荒れていたり、改変されたり、また更地にされ宅地化されている場合が目立っている。

(2) 長野市松代町では、池庭の減少が際立っている。1985年の調査記録が残されているが、武家屋敷地であった代官町、馬場町、表柴町の3町に98軒の池庭が確認されていた。2019年の調査では、39軒にしか確認されていない。水路網は、部分的に変更されても、大部分が残っている。城下町を説明し記録や記憶を伝えていくガイダンス施設はない。説明板だが、道沿いには城下町全体、水路網、庭園群を説明するものはなかった。一般客に無料公開されている山寺邸の敷地内に水路網や庭園群の説明板が設置され、武家屋敷地の構成や水路網などの特徴が説明されている。ただ、そのことは観光客のみならず市民にも周知されていない。

(3) 群馬県甘楽郡甘楽町小幡では、水路網も池庭も概ね維持されていた。以前の調査結果は、1983（昭和58）年に刊行された『小幡の町並 群馬県甘楽郡甘楽町小幡 伝統的建造物群調査報告書』に説明されている。陣屋と10軒の武家屋敷に池のある庭があり、水路網が通っていることを明らかにしている。2020年に調査したが、庭は存続しており、水路網にも変化がなかった。説明板だが、雄川堰と小堰と呼ばれる水路網のそばの7ヶ所に、水路に関する説明板があった。庭園の説明板は道沿いに2ヶ所、屋敷地内に8ヶ所あった。詳しく説明されていることが特徴である。ただ、城下町全体、および水路網や庭園群を知るためのガイダンス施設がない。

(4) 福岡県朝倉市秋月では、庭園の悉皆調査がなされていない。2009年から翌年にかけて南九州大学教授であった永松義博先生が水路網と19庭園を調査されたが、これがほぼ全体数である。2019年と21年に調査したが、水路網は維持されていることが分かった。ただ、庭園群だが、池が消滅していたり、管理不足で植物が生い茂っているケースも見られた。案内の施設はなかった。説明板だが、公営の秋月観光駐車場内にまち歩きコースや朝倉市の地図を掲載した説明板があった。また、道沿いに多くの行き先案内があり、散策するには便利である。城下町に関する説明板は、道沿いに19ヶ所、敷地内に2ヶ所あった。城下町全体の説明板は、城内に1ヶ所あるだけであった。水路に関する説明板もなく、庭園に関する説明板もなかった。城下町全体、および水路網や庭園群を知るためのガイダンス施設が必要である。

(5) 福岡県柳川市では、庭園の悉皆調査がなされていない。水路網（掘割）に関しては、2014年に「名勝水郷柳河」として指定されたが、主要な掘割だけが指定され、細い掘割は指定されていない。2007年には南九州大学教授であった永松義博先生が水路網と24庭園を調査され

たが、24庭園以外にも池がある庭がある可能性がある。2021年に調査したが、歩いた範囲内では、掘割に水が流れていた。ただ、池のある庭園は1ヶ所で宅地開発が行われ、アパートが建設されていた。説明板だが、町を歩くと地図や行き先案内が多数設置され、歩くには困らない。城下町に関する説明板は道沿いに16ヶ所あったが、城下町全体を説明するものはなかった。掘割に関する説明板も、外堀および土塁、水門を説明する2ヶ所しかなかった。庭園の説明板だが、国指定名勝になっている2庭園の前に設置されているだけであった。庭園群の説明はない。やはり、城下町全体、および水路網や庭園群を総合的に知るためのガイダンス施設が必要である。

(6) 長崎県雲仙市国見町神代では2005年に国により重要伝統的建造物群保存地区に選定され、その時の調査報告がある。水路網が調査され、そこから取水する池のある庭園が13軒あることが明らかになっている。2010年から翌年にかけて、南九州大学教授であった永松義博先生が水路網と11庭園を調査された。結果だが、半数の6軒で荒れていて、池の護岸も崩壊していた。2021年に調査したが、同様の現状であった。説明板だが、道沿いに4ヶ所あった。島原鉄道神代駅から歩いて神代地区に入る天神橋の手前と渡った先の駐車場に同じ大きな説明板があり、城下町の沿革と特性が地図をつけて説明されてあった。町の内部には、枡形の説明板が1ヶ所あるだけである。庭園の説明板は、公開されている鍋島邸にあった。ガイダンス施設はないが、詳しい説明板が町の入り口と駐車場に設置されていた。一つの方法である。

(7) 水路はほぼ維持されているが、池庭は減少している。それは個人の土地である場合が全てであった。池庭を維持する対策としては、公有地かが効果的である。松代町で何軒か行われている。ただ、それにも予算上限度がある。池庭の維持管理に対し、なんらかの補助を行ったり、神代のように市民団体が借受けて行うなど、対策が必要である。ただし、それで全ての池庭が保存されることは考えられない。何を残すのか、何が残せるのか、それぞれの町で検討する必要がある。

(8) 町の記憶を伝える説明板だが、城下町によりその配置や記載内容が異なっていた。説明板の配置に関しては、小幡、秋月、柳川の町で多く、そのデザインも統一されていた。松代では、道路沿いには少ない。神代では極めて少ないが、町の入口に大きく充実した説明板を設置している。

説明板の説明内容だが、城下町の構成、水路網、庭園群が説明されているのが、松代、小幡、神代（地図だけ）であった。秋月では全く説明されておらず、柳川では水門と個別の庭園の説明だけであった。やはり町を理解し、散策をより楽しめるようにするには、以上の点に関する説明板があったほうが良い。

訪れた人が城下町の構成や水路網、庭園群を総合的に理解できる場所は、5ヶ所の城下町にはなかった。訪れやすい場所に以上の点を把握できるガイダンス施設を設けることが望まれる。それが、城下町に残る庭園群とそれを支える水路網への理解を促すことにつながる。さらに城下町の沿革や特徴、また文化財を知る上でも効果的であろう。

それぞれの公開庭園の説明はなされている場合が多い。しかし、個人所有の庭園に関する説明板はまれである。それだけに、水路網や庭園群など城下町全体に関するガイダンス施設があったら、町の個性を伝える上で、より効果的と言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐々木邦博
2. 発表標題 城下町の水路網と庭園群の現状と説明板の役割
3. 学会等名 日本庭園学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木邦博
2. 発表標題 城下町の水路網と庭園群に関する説明板の配置と内容
3. 学会等名 日本庭園学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

論文は、現在、執筆中です。

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------